子育てかわら版 第23号

園長だより１４４号復刻

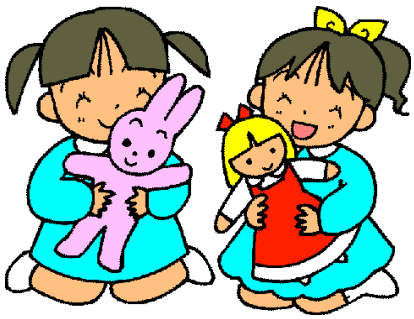
過去の園長だよりです

平成２０年５月１５日発行

《年齢に応じた発達課題があるⅢ》
九州大谷短大山田真理子先生の意見を取り入れながら

3歳児の発達課題

三歳児は自己主張と攻撃性の発散という特徴があります。攻撃性というのは、「乱暴」とか「暴力」的なことを言っているのではなく、心や体の内部に育ってきたものが外に向かって放出されるということです。また、自己防衛のため自分にとって不都合なものを排除しようとする生物として当然の行動であって、積極性や活動性の芽生えといえます。自分以外の他者の存在に対し理解と意識がでてきたことによるものです。この他者の意識が芽生えることで、保護者とだけの関わりだけでなく同年代の子供との関わりを強く求めるようになります。他者との関わりの中で、手足の使い方、表現の仕方が未熟なため、例えば友達の髪飾りを直してあげようとして、結果的に髪を引っ張ってしまった等、「攻撃」という形をとることがありますが、自己主張とか、やる気の表れと見るべきだと思います。2歳児のいたずらに始まって、3歳児の攻撃性が現れるようになって、「ダメ」ということが多くなると思いますが、順調に育つための必然的の行動までも否定してしまうことは後々の成長に支障をきたすことになると思うので、正しい成長発達の仕方をよく見据えて関わっていきたいものだと思います。3歳児は他者の存在に気づくときということは、今まではお母さんと自分は違う人間であることをあまりはっきりとは自覚していなかったのが、違う人間であることに気がつき、お母さんから離れ自分の生き方をしようとしてきます。その端的な表れが、「自分でする」と言い、お母さんの要求に対して「イヤ」を連発するようになります。2歳の途中から起きる現象で、一般に反抗期と呼ばれていますが、反抗しているのではなく、自分の生き方で生きていこうとする自立が始まったのです。運動能力を始めとするあらゆる能力が発達し、ことに言葉の発達は目覚しいものがあります。言葉を使うことによって、他者との関わりが出来るようになってきたことと、お母さんとだけのかかわりでは物足りなくなってきたことがあいまって、友達を求めるようになります。幼稚園が3歳児からというのはまさにこのタイミングのことを言っています。



3歳児のもうひとつの特徴として「はずの世界、つもりの世界」にいるということです。

はずの世界とは、自分は出来るはず、こうやればこうなるはずと思っていること、つもりの世界とは自分はやっている（出来ている）つもりでいること、○○（例えばポケモンやプリキュウア）になったつもりになっていることを言います。これはファンタジーの世界に住んでいることと、積極性の芽生えと共に意欲が育ってきたからです。自分には不可能はない、何でも出来ると思っているのが3歳児です。自立した人間、すなわち難問が降りかかってきたとき自分で解決策を考えて実行していく人間になるためには困難に立ち向かっていく強い意欲と積極性が必要ですが、それが最も育つのが3歳です。

また、3歳児は運動能力が飛躍的に伸びたとはいっても自分がやろうと思ったとおりに身体を動かすことがうまく出来ません。外から見ていてまったく出来ていなくても本人はやっているつもり、出来ているつもりになっていますから、3歳児には成果を求めてはいけないのです。それよりもやろうとした意欲を認め、褒めて育てるべきだと思います。